



TITLE:

イチヨウの大型の葉

AUTHOR(S):

久保田, 信

---

CITATION:

久保田, 信. イチヨウの大型の葉. くろしお 2016, 35: 24-25

ISSUE DATE:

2016-10

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/216949>

RIGHT:

© 南紀生物同好会

## イチョウの大型の葉

Large leaves of *Ginkgo biloba*

久保田 信

裸子植物の針葉樹、イチョウ *Ginkgo biloba* の葉は、通常は扇形で、中央部が浅く割れることから種小名には“2つの裂片 (two lobes)”の意味が付けられている。原産地・自生地は不明だが、我が国では仏教寺院などに盛んに植えられ、古くに葉種として伝来した。イチョウは長寿で、和歌山県下を含め各地に巨木が点在している。また、果実のならない雄株は街路樹としてよく利用されており、いわゆる銀杏並木として知られ、国土交通省の2007年の調査によれば、57万本が植えられており、樹種別では最多本数であるとのことである (Wikipedia)。

これまで著者は半世紀ほどイチョウの葉を日本各地で見してきたが、最近、驚くべきサイズの葉が和歌山県白浜町をはじめ、主に近畿圏で見つかったので報告する。まず、和歌山県白浜町の大型の葉は、湯崎保育園の1本の樹木に落葉せずについていたもので、最大幅が158mmあった (図1)。この木は保育園が設立した1974年から40年を経過した若い木で、最近、剪定をした。

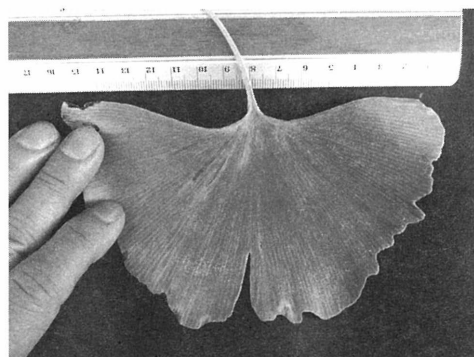


図1 和歌山県白浜町湯崎保育園の  
大型のイチョウの葉

このようなイチョウの大型の葉に遭遇したのは、京都市松ヶ崎の京都工業繊維大学付近の街路樹で、黄色になって道路に落葉していたのを2011年12月9日に発見したのが最初である (図2)。この時以来、日本各地で多数の巨木や老木を調査したにもかかわらず、他の2箇所で見つかったのみである：2012年1月22日、東京大学赤門前の街路樹 (図3)；2012年9月15日、大阪大学構内の街路樹 (図4)。

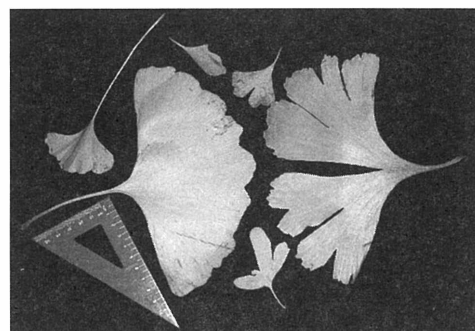


図2 日本各地の大型のイチョウの葉  
(京都市松ヶ崎)

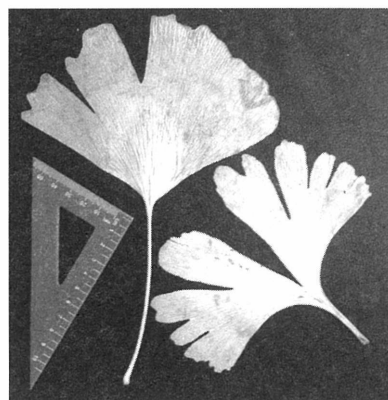


図3 日本各地の大型のイチョウの葉  
(東京大学赤門前)

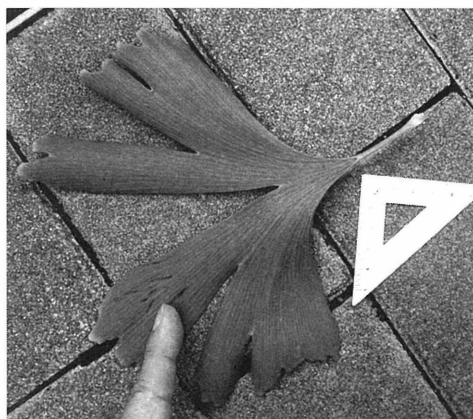


図4 日本各地の大型のイチョウの葉  
(大阪大学構内)

イチョウの葉の形や大きさは、葉の細胞がつくられる位置と遺伝子で決定されているが(日本科学未来館)、剪定をすると葉の少なさをカバーして光合成量を増すように大きくなるということがあるらしい(<http://fukuokazouen.biz/>

[pdf/sentei\\_koyo.pdf](#))。上記の全ての葉が剪定を受けた後で大型化した可能性があるか、今後の検証課題となろう。

#### 謝辞

白浜町の情報をご教示下さった小山康裕氏に深謝致します。

#### 引用文献

日本科学未来館ブログ <http://blog.miraikan.jst.go.jp/other/20141121post-558.html>  
Wikipedia. <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%A4%E3%83%81%E3%83%A7%E3%82>

(〒649-2211 西牟婁郡白浜町459)  
京都大学フィールド科学教育研究センター  
瀬戸臨海実験所